

豊田市下山地区における基幹バスに対する利用者評価

豊田工業高等専門学校 学生会員 ○船戸 彩加

豊田工業高等専門学校 正会員 野田 宏治

豊田工業高等専門学校 正会員 荻野 弘

1. 研究目的

愛知県豊田市内では平成 20 年 4 月より、民間のバス会社の撤退で市が運営する『とよたおいでんバス』と呼ばれる基幹バスが運行を始めた。本研究では、沿線の地域住民・バス利用者のおいでんバスへの評価、あるいはバスを利用しない人はその理由を調査する。また、調査結果により双方の類似点または相違点を明らかにする。

2. 研究方法

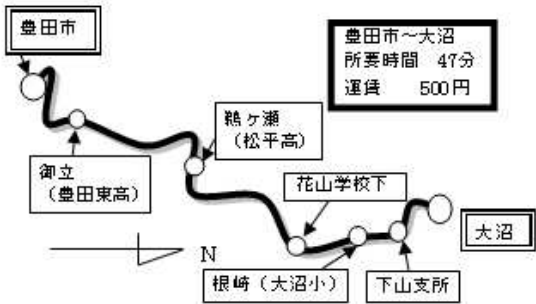


図 1 下山豊田線路線図

とよたおいでんバスは平成21年1月現在10路線が運行している。そのうち、8 路線は旧町村部を走っている。今回は、旧下山村と豊田市駅を結ぶ下山・豊田線を調査対象とする。図 1 に路線図を示す。豊田市駅と大沼（旧下山村）を約47 分で運行している。

- 本研究は以下の手順で行った。
- ①下山・豊田線沿線の小学校の児童・保護者に対して路線沿線地域に居住する人のバスの利用状況や公共交通利用に対する意識の把握
 - ②小学生に対してバスの乗り方に関する出前授業
 - ③下山豊田線利用者の評価

3. アンケートの実施

キーワード 基幹バス，利用者評価，アンケート，出前授業

連絡先 〒471-8790 愛知県豊田市栄生町 2－1 豊田工業高等専門学校環境都市工学科 TEL 0565-36-5878

バスに対する意識を明らかにするため下山 豊田線沿線の豊田市立大沼小学校・花山小学校の児童・保護者と下山・豊田線利用者に対するアンケートを行った。

表 1 と表 2 はアンケートの内容である

また、小学校でアンケート調査をするにあたって、児童を対象においでんバスPR出前授業を行った。内容は、バスの乗り方の劇と実車を用いた体験乗車、環境面でのバス利用の効果を説明した。

表 1 小学校アンケート 対象と項目

実施対象	大沼小 児童 32 名 保護者 32 名（1～3 年）	
	花山小 児童 120 名 保護者 92 名（全校児童）	
アンケート項目	児童	①普段の公共交通の利用状況 ②おいでんバスへの乗車の有無 ③今後バスに乗車したいか
	保護者	①普段の公共交通の利用状況 ②おいでんバスへの乗車の有無 ③路線バスに関して関心の有無 ④みちなびとよた（移動支援ポータルサイト）の利用の有無 ⑤自由記述

表 2 乗客アンケート 実施内容

配布日時	平成 20 年 12 月 11 日（木） 上り 6：05 大沼発～14：47 豊田市着 7 本 下り 7：10 豊田市発～13：47 大沼着 4 本
	方法 バス車内に乗り込み、アンケートを手渡す
アンケート項目	①個人属性（年齢・性別・住所） ②普段のとよたおいでんバスの利用状況（乗車回数・バス停、バス停までの交通手段） ③おいでんバスに対する評価 改善点の要望 ④市営化以前との変化に対する評価 ⑤豊田市移動支援ポータルサイトの利用の有無 ⑥自由記述
部数	配布数 172 票 回収数 50 票（配布率：29.2%）

4. 研究結果

4. 1 沿線小学生の意見

出前授業前に実施した児童に対してのアンケート

について、『保護者が普段自動車を利用しているの
で路線バスに乗る機会は少ないが、乗ってみたい』
という意見が 57 人得られた。

4. 2 沿線地域住民の特徴

(1) 回答者の属性

小学生の保護者からの回答は 124 票で、男性は
11.3%・女性は83.9%。年齢は、30 歳代が 62.4%で、
パートが 39.5%、専業主婦が 25.8%を占めていた。

(2) 利用状況と居住実態

保護者アンケートでは、おいでんバスについては、
88%が「利用していない」と回答した。その理由と
して図 2 のように、多いものから「自動車のほうが
便利」「時間が合わない」が挙げられた。

自宅から最も近いバス停への徒歩による所要時間
を尋ねたところ、5 分以内の回答が 9%、20 分以上か
かるのは 22%と大きな差はないが 自由記述欄には
『バス停が遠いから利用できない』という意見が 7
件（すべて徒歩 20 分以上かかる）あることから自宅
からバス停への遠さも大きな理由のようである。

4. 3 バス利用者のバス評価

(1) 回答者属性

平成 20 年 4 月の平日平均 1 日利用者数は上下合わ
せて 394 人。乗客アンケートの回答者は、男性 20 名
(40%) 女性 30 名 (60%) であり、年代が 10 歳代
(40%)、次いで 60 歳代以上 (24%) と高校生・学
生の回答者と高齢の回答者の多さが目立った。また
56%の乗客は「毎日利用している」と回答した。

(2) とよたおいでんバスに対する評価

下山豊田線について乗客に各項目と総合評価につ
いて満足・普通・不満の 3 段階で評価してもらった。

図 3 は路線評価、図 4 は車両評価である。

路線評価の『運行本数』では、80.4%の人が『不満
足』と答えている。現在の段階で、朝夕（午前 6～8
時と午後 4 時～最終）は 1 時間に 1 本、昼間（午前
10 時～午後 2 時まで）は 2 時間に 1 本の割合で運
行されている。また、通勤・通学利用者が多いこと
から乗り遅れることが出来ない。結果、料金面より
も、バスの本数や運行時間の間隔について不満が見
られたのではと考えられる。

『時間帯』では 72.7%が『不満』と答えていた。
豊田発平日は 21:30、休日は 21:00 に最終である。
飲み会の時に利用していると答えた 5 人中 3 人は、

この『時間帯』を改善点として挙げている。

車両評価の『混雑度』では 46.8%の人が『不満』
と答えている。この路線は通勤通学者が多く、午前
6、7 時台に利用が集中する。下山豊田線は中型車両のた
め立っている場所も狭く、また乗り降りに時間がか
かるため、遅れが生じる。

『車内の雰囲気』での満足が 12.8%と項目の中で最
も低いことから、混雑によって雰囲気が悪くなって
いるのでは考えられる。

5. まとめ

アンケート結果はどちらもバス路線の運行時間や
本数に不満を持っている人が多い。時間帯によっ
ては、乗りたい時刻より早くバス停に向かうか、目的
地に行く時間を遅らせなければならぬ。この『不
便さ』が利用しない最も大きな理由だと思われる。

一方で利用者は、バスしか交通手段がなく、バス
に乗れなかった場合の代替交通手段がないという人
の回答が多くを占めている。また、『子供が高校に入
ったら使わせたい』『無くさないでほしい』という地
域住民・利用者の意見が自由記述より 6 件得られた。

市民の足として利用されるには、混雑する平日午
前 6、7 時台を 30 分に 1 本に増便するなど、運行ダ
イヤ、あるいは運行形態の改善が必要とされている。

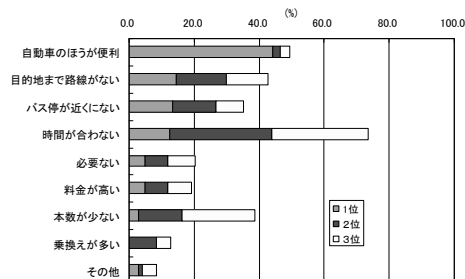


図 2 おいでんバスを利用しない理由

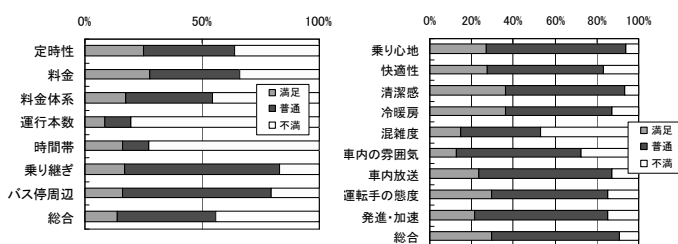


図 3 路線評価

図 4 車両評価

参考文献

- 1) 山崎基浩, 橋本成仁, 石川要一, 加藤圭: 中心市街地活性化に資するバス交通施設の評価, 土木計画研究講演集 VOL38